

第 354 回昭和の森自然観察会

水辺に生える植物の秘密を探ろう！

梅宮玲子（市原市）

日 時：2021 年 6 月 13 日（日）10～12 時 天気：晴れ

参加者：11 名（大人 7 名、子ども 4 名） 指導員 6 名 他 1 名 計 18 名

担当指導員：須田・玉川・梅宮

ちょっと蒸し暑さが気になりましたが、3 班に分かれて自然観察会を開始。まず水辺を求めて湿生植物園に降りていきました。途中、美味しいモミジイチゴを見つけ味見。

階段を下りてすぐの場所で、ショウブの香りを楽しんでから、サトイモ科の菖蒲とアヤメ科の花菖蒲の花をみくらべました。イの花もみてから、水が湧き出ている小さな水路でカワニナを眺めていると、ホトケドジョウを発見。

湿性植物園では 20 数年前の写真を見せ、以前は花菖蒲が見事で有名だったこと。木道を歩きながら今はスギナと特定外来生物のオオフサモが増えすぎて、水路がオーバーフローしてしまい ビオトープの会の人たちが駆除するのが大変だったことなど話しました。

テーブルには大賀ハスの葉、ホテイアオイ、ウキクサ、イチョウウキゴケ、ヒシ等々準備（実験植物は指導員が持参）。ホテイアオイを押して空気が出るのを観察。カッターで切って中身が段ボールと似ているハニカム構造になっていることを確認。またハスの葉が水をはじく細かい突起はご飯粒が付きにくいシャモジや、乳製品の蓋など、生活用品に応用されていることを実感。

ヨシ原ではオオヨシキリがヨシの先端にとまってギョギョギョとけたたましく縄張りを主張。喜んで見ていると、気付いて下に隠れてしまいました。そのまま、ヨシ、ガマ、マコモを観察。下夕田池でスイレンを見て、花の寿命、ハスとスイレンの見分け方、構造の違いを観察。

また、ちょうど昭和の森が千葉市で一番標高が高いところから村田川（東京湾へ）、鹿島川（太平洋へ、印旛沼、利根川経由）、小中川（南白亜川）（太平洋へ、大網白里経由）の源流として分水界にあたること、分水嶺との違いも話しました。

最後にテーブルで大賀ハスの茎を切り、大人も子どももしゃぼん玉で大喜び。ハスとスイレンの違いがわかった！ ルーペで観た世界が新鮮！との感想。まだ、遊びたりない親子はそのまま、ここで解散。下準備はいろいろ大変でしたが、とても楽しい観察会となりました。



カワニナ、ホトケドジョウを観察



カッターで切ってホテイアオイの構造を見る